

世界有数の「高付加価値経済MICE戦略都市」をめざして

大阪の成長産業振興・経済活性化、MICE都市ブランド向上へ

大阪におけるMICE推進の基本的な考え方

MICEは今後世界的に需要増が見込まれることから、MICE推進を大阪経済の活性化につなげていくため、府・市・経済団体・大阪観光局が緊密に連携し、戦略的に推進する。

関西のゲートウェイであり関西広域における成長拠点として、大阪・関西の経済成長を牽引するMICEを誘致・開催する。

戦略的MICE誘致の推進

- ・大阪の成長産業分野や都市格向上につながるMICEなどを重点的に誘致するとともに、大阪の特色を活かした重点誘致対象を設定する。
- ・MICE推進体制の構築、マーケティング・セールス手法強化を推進する。

主要MICE拠点の役割分担 ・機能強化

- ・国際競争、地域間競争に打ち勝つため、大阪の主要MICE拠点において、各拠点の役割分担やオールインワン型をはじめとする多様な規模・形態の施設への機能強化の検討を行う。

MICEクラスターの連携

- ・複数のMICEクラスターを組織化し、施設や地域の特性に合わせた誘致対象などの検討を行う。

MICE推進の達成目標

- ・本MICE推進の基本方針の達成目標年度は、平成37年度（2025年度）に設定する。
- ・達成目標数値の設定にあたっては、大阪の経済活性化をめざしたMICE推進の目的に鑑み、従来の国際会議開催件数だけでなく、開催内容（経済効果、学術研究、社会的影響力等）が大阪経済に資するかどうかの評価を重視したもののとし、その中から数値による把握が可能なものとする。

達成目標（KPI） 平成37年（2025年）

都市別国際会議開催ランキング 世界30位以内（アジア・大洋州・中東地域10位以内）（ICCA基準）
（H27（2015）世界115位、アジア25位）

大阪府域の国際会議開催件数 600件以上（JNTO基準）（H27（2015）242件）

経済波及効果 400億円以上（国際会議、インセンティブツアーのみ）
（H27（2015）164億円）

観光庁の「MICE開催による経済波及効果測定のための簡易測定モデル」を用い
大阪市内で開催されたものについて算出。

上記以外にも、MICE施設等関係者の協力を得ながら、M/I/C/E毎に開催件数、規模、参加者数（うち海外からの参加者数）等実績データを収集し、毎年振り返りを行う。

戦略的MICE誘致の推進

主要MICE拠点の役割分担・機能強化

MICEクラスターの連携

戦略的MICE誘致の推進（１）

（１）重点誘致対象（誘致ターゲット）の設定

重点誘致対象（誘致ターゲット）

大阪の強みであり今後成長が期待される環境・新エネルギー分野、ライフサイエンス分野、情報通信分野等の産業分野に加え、都市格の向上にもつながる国連等政府系会議に関連するものを最優先としつつ、金融関係、インセンティブツアーなど、大阪経済への波及効果が高く見込まれるものについてMICE毎にターゲットを設定し国内外から戦略的に誘致する。さらに、食・スポーツなど、大阪の特色を活かした分野に加え、特に、平成37年（2025年）に誘致をめざしている国際博覧会のテーマにつながるものに注力する。

	重点誘致対象	考え方
M（会議） （Meeting）	環境・新エネルギー、ライフサイエンス、情報通信等に関連する会議	成長分野に関連しイノベーション創出に資する企業の中小会議や、アジア太平洋地域で周回型の業界団体の大会を誘致
I（インセンティブ） （Incentive）	近隣アジア諸国からの大型インセンティブツアー	特に外資系企業が主催するものを誘致
C（国際会議） （Convention）	環境・新エネルギー、ライフサイエンス、情報通信等に関連する学術会議、国連等政府系会議	成長分野に関連しイノベーション創出に資する学会・協会等主催の学術会議や、国や国連等国際団体が関連する政府系会議を誘致
E（展示会・イベント） （Exhibition/Event）	環境・新エネルギー、ライフサイエンス、情報通信、食、スポーツ等に関連する展示会	成長分野や地域経済に関連する展示会や、国内外から集客を見込める大規模イベントを誘致

戦略的MICE誘致の推進（２）

（２）MICE事業推進のための体制作り

- ・大阪の経済成長に資するMICE誘致や、誘致したMICEの地元への経済効果を最大限に引き出すとともに開催にあたっての支援等を実施していくため、大阪観光局を中心に、府・市・経済団体が一体となってMICE誘致を推進する。
- ・実働部隊として、府・市・経済団体に加え、MICE施設等も参画した会議を立ち上げ、適宜情報共有を行うとともに、主要施設を最大限活用した誘致活動を行う。
- ・各MICEクラスターと情報共有等連携を行い、大阪全体での誘致活動を実施する。

MICE推進体制の構築

- ・MICE推進に向け、府・市・経済団体・大阪観光局により「大阪MICE推進委員会」を立ち上げ、主要施設を最大限活用し、大阪の経済成長及び都市格向上に資する国内外からのMICE誘致を戦略的に行う。また、委員会のもとに実務者会議を設置し、MICE施設等も交えて、MICEの誘致に向けた具体的な手法の検討や情報の共有等に努める。
- ・個別の国際会議、展示会等案件が出てきた場合、必要に応じて誘致委員会等を立ち上げ、首長や関連団体の長の誘致レターの作成などの誘致活動を行う。
- ・各MICE開催にあたっては、開催時の首長や関連団体の長のオープニングへの参加などの歓迎行事の協力を行うとともに、各種開催支援（広報PR、公共地活用にかかる規制緩和等）を行う。
- ・MICE推進に関する取り組みについては、府・市・経済団体のトップが会する場において、定期的に報告を行う。

大阪MICEビジネス・アライアンスとの連携

- ・民間主体のMICE誘致・支援のネットワーク組織である「大阪MICEビジネス・アライアンス」と連携し、開催地としてのプロモーション等を行う。

各MICEクラスターとの連携

- ・各MICEクラスターと連携し、エリアの特性に応じたMICE誘致など、MICEブランド構築に向け、情報共有・意見交換を行う。

戦略的MICE誘致の推進（3）

（3）MICE誘致手法の検討

- ・重点誘致対象の誘致に向けて、マーケティング・セールス手法を強化する。特に、学会・協会等関係者や関連企業との連携を強化する。
- ・大阪観光局のMICE推進部の体制強化に努める。

- ・重点誘致対象を確実に誘致するため、国内外のMICE事業にかかるマーケティングを適切に行うとともに、海外も含めて積極的にセールス活動を行う。特に、国際会議や展示会開催にかかる意思決定権を有している学会・協会等関係者や重点誘致対象分野に関連する企業との連携を強化する。
- ・MICE誘致にあたっては、専門人材を擁する大阪観光局を中心に、大阪版DMOとして国の交付金(平成32年(2020年)までの措置)を活用しながら行う。通常、MICEは開催の4~5年前から誘致活動が行われるため、MICE施設の機能が強化される時期を見越して、戦略的なMICE誘致に必要な体制強化に努める。夢洲で事業を行う統合型リゾート(IR)事業者等が決定した際は、当該統合型リゾート(IR)事業者とも緊密に連携し、MICE誘致を行う。
- ・また、MICE誘致・開催には高度に専門的なスキル・ノウハウが必要となるため、このような能力を持つ人材の育成に努める。
- ・大阪に集積する産業分野等を中心としたMICEを誘致するため、経済団体等の推薦を受け、大阪MICE推進委員会が任命した方に大阪版MICEアンバサダー(仮称)に就任いただき誘致活動を行っていただく。

（4）関西一体となった連携協力のハブ機能の検討

- ・関西広域及び中四国等の都市と情報共有等を通じて緩やかな連携を図り、関西圏の各団体等との一体となった連携協力による広域でのMICE推進のハブ機能を担うとともに、大阪のMICE関連産業の活性化につなげる。
- ・また、関西・中四国で開催される様々なMICEと棲み分けを図る。

- ・関西観光本部等と連携し、行政区を超えた情報共有・意見交換・連携を行い、関西全体のMICE市場全体を増やす取り組みを進める。
- ・また、近隣他都市にはない大阪ならではのMICE誘致に努め、他都市との棲み分けを図る。

主要MICE拠点の役割分担・機能強化

- ・MICEは都市の経済活性化、ブランド向上に重要な役割を果たす。そのため、MICE施設は都市の発展に重要なインフラのようなものと言える。
- ・近年、世界的に国際会議や展示会の開催態様が変化しており、一定規模の会議場・展示場が一体的に整備・運営され、宿泊、飲食、物販、エンターテインメントなどの機能が集約されたオールインワン型のMICE施設が求められており、施設がないことを理由にMICE開催都市として選定されなくなっている状況にある。
- ・MICE推進においてアジアのトップをめざしていくためには、海外他都市にも比肩するMICE施設が必要である。
- ・大規模用地を確保可能な夢洲に世界第一級のMICE施設を整備するとともに、既存のMICE施設が立地し今後さらなるまちづくりが予定されている大阪駅周辺、中之島を中心に、各拠点の役割分担や機能強化を図る。MICE施設の整備運営にあたっては、公民の役割分担及び緊密な連携が必要である。加えて、大阪府域各所に立地するMICEクラスターとの連携が重要である。
- ・一部の国際会議等については、独自のレギュレーション（運営基準）により、統合型リゾート（IR）に隣接しない会場での開催を推奨していることなどにも留意した上で、役割分担や連携の検討が必要である。

主要エリアの役割分担・機能強化の方向性

主要エリア	エリアの特徴	まちづくりの方向性	役割分担	機能強化
大阪駅周辺	西日本随一のターミナルうめきた2期のまちづくりが進行中	国際競争力を有する都市機能を高度に集積、国際競争に必要なイノベーション創出に取り組む	アクセスの良さを活かした中小規模MICEの実施	民間主導によるカンファレンス・展示機能等の充実
中之島	水都大阪のシンボルアイランド大阪を代表する大阪府立国際会議場が立地	歴史・文化と水辺の都市環境を活かしたまちづくりを推進するとともに、国際的な業務・文化・学術・交流拠点の形成を図る	医学会等の学術系の中規模MICEの実施	会議場・展示場一体型MICE機能の検討
ベイエリア（咲洲・夢洲）	咲洲に大規模展示場（インテックス大阪）が立地 夢洲では国際観光拠点形成をめざす	夢洲の大規模用地を活用し、大阪・関西のネットワークの拠点となる国際観光拠点を形成	これまで国内で開催されてこなかった世界規模MICEの実施	夢洲に世界第一級のオールインワン型MICE機能の整備

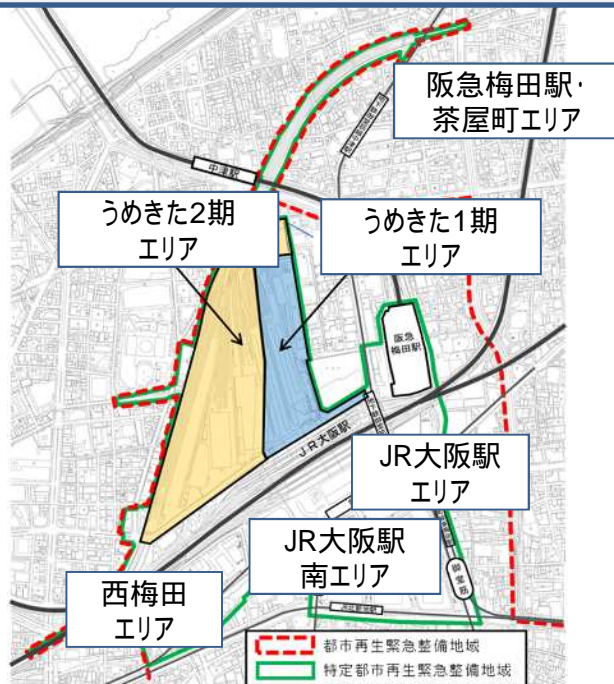
主要MICE拠点の役割分担・機能強化（大阪駅周辺エリア）

大阪駅周辺エリアの特徴と方向性

- ・西日本随一かつ関西国際空港と直結するターミナルを有し、多様な層をターゲットとした宿泊施設、商業・飲食施設、エンターテインメント施設等都市機能が高度に集積しており、大阪、関西のみならず国の成長をけん引する国際競争力を備えたエリアである。国際レベルの人材・企業の活動の受け皿となり、これを支える空間・基盤を整備するとともに、この地域に集まる多様な人々の交流を通じ、新たな価値・情報・文化等を創出する知的創造拠点機能を強化する。
- ・特に、うめきた2期では、世界の人々を惹きつける比類なき魅力を備えた「みどり」と、新たな国際競争力を獲得し、世界をリードする「イノベーション」とが融合するまちづくりを推進し、大阪・関西の発展を牽引し、国の成長に寄与する。

大阪駅周辺エリアのMICE機能強化方針

- ・大阪駅周辺エリアでは、エリアの特徴を活かし、都市型カンファレンス・展示機能等の充実を図る。また、多様な施設が相互に連携することでエリア全体でMICE機能の充実を図り、中小規模の会議や小規模のインセンティブツアーを中心とした、都市型MICEの拠点を形成する。



主な会議施設

各施設における最大規模の会場の収容人数

施設名	収容人数()
ナレッジキャピタルコングレコンベンションセンター	1,750
ハービスHALL	1,000
梅田スカイビルイベントホール	1,000
サンケイホールブリーゼ・ブリーゼプラザ	912
梅田センタービルクリスタルホール	700
ナレッジキャピタルイベントラボ	500

主要MICE拠点の役割分担・機能強化（中之島エリア）

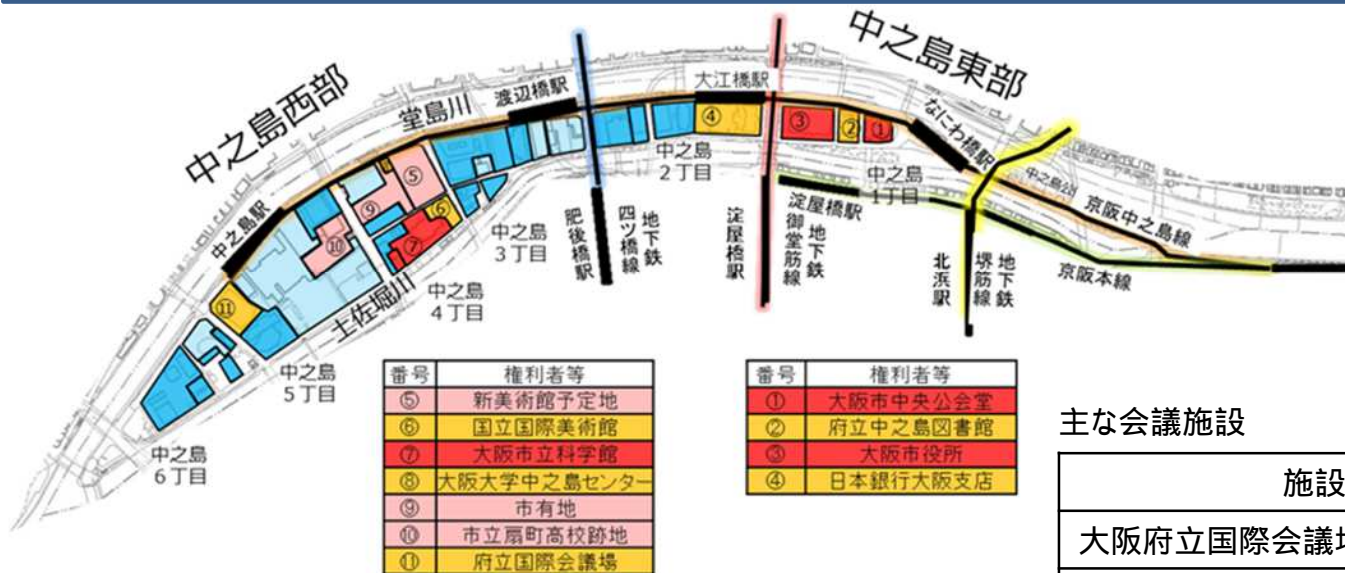
中之島エリアの特徴と方向性

・古くからの経済・文化・行政の中心地であり、現在でも、業務の中枢機能などが集積、芸術・文化の発信拠点としての役割も担い、大阪の中心業務地区を形成している。堂島川と土佐堀川に挟まれた水都大阪のシンボルアイランドとなっている。

・こういった地区の特性を活かし、これまでの業務・文化・MICE機能の集積に加え、新しい美術館の整備とともに、産学・社会学連携拠点や再生医療国際拠点の形成、都市型MICE機能など国際ビジネスサポート機能の拡充につながる都市開発の促進などにより、国際的な業務・文化・学術・交流拠点の形成を図っている。

中之島エリアのMICE機能強化方針

・これまで多数の国内外の国際会議が開催されてきた大阪府立国際会議場を中心に、中之島エリアの開発に合わせて、会議場・展示場一体型MICE機能の確保について検討する。



主な会議施設 各施設における最大規模の会場の収容人数

施設名	収容人数()
大阪府立国際会議場	2,754
堂島リバーフォーラム	1,200
大阪市中央公会堂	1,161

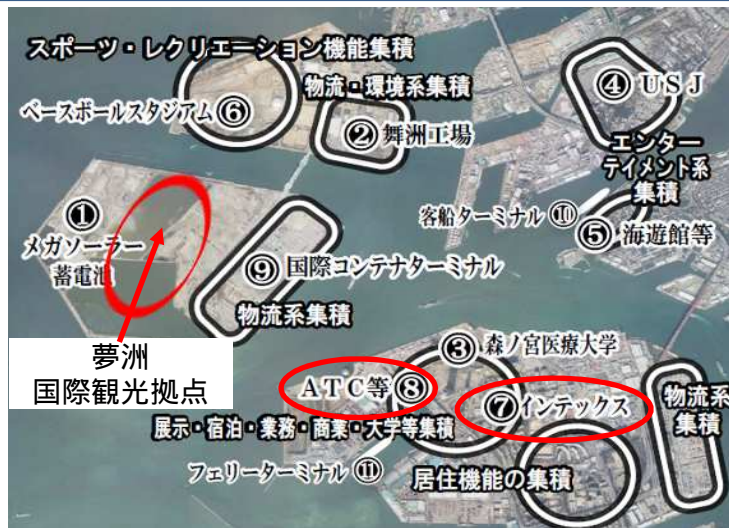
主要MICE拠点の役割分担・機能強化（バイエリア）

バイエリアの特徴と方向性

・臨海部では、港湾・物流機能が充実集積しているとともに、工場などの生産機能を主とした土地利用が行われている。夢洲・咲洲地区及び阪神港地区では、関西が強みをもつ環境・エネルギー産業の生産拠点の集積と、こうした産業を下支えする国際物流機能の強化をめざしている。特に、夢洲では、立地ポテンシャルを活かし、訴求力の高い国際観光拠点を形成し、大阪経済の活性化に寄与するとともに、ネットワーク形成により拠点形成の効果を広く波及させ、西日本の活性化に寄与する。

バイエリアのMICE機能強化方針

・夢洲に、統合型リゾート（IR）を核として世界に訴求力を持つオールインワンMICE拠点を形成し、都市力向上・産業振興に資する大規模展示会や国際会議等への対応力を強化する。
 （世界水準の質・規模の展示施設、会議場等を備えた複合施設（展示面積10万～20万㎡の日本最大級の展示施設、1万人規模の会議に対応できる会議場を併設）をめざす。）
 ・国際観光拠点の集客と最先端技術の実証・実践の取り組みとの相乗効果により、夢洲全体で次の成長産業につながる新たなイノベーションが誘発されるまちをめざす。



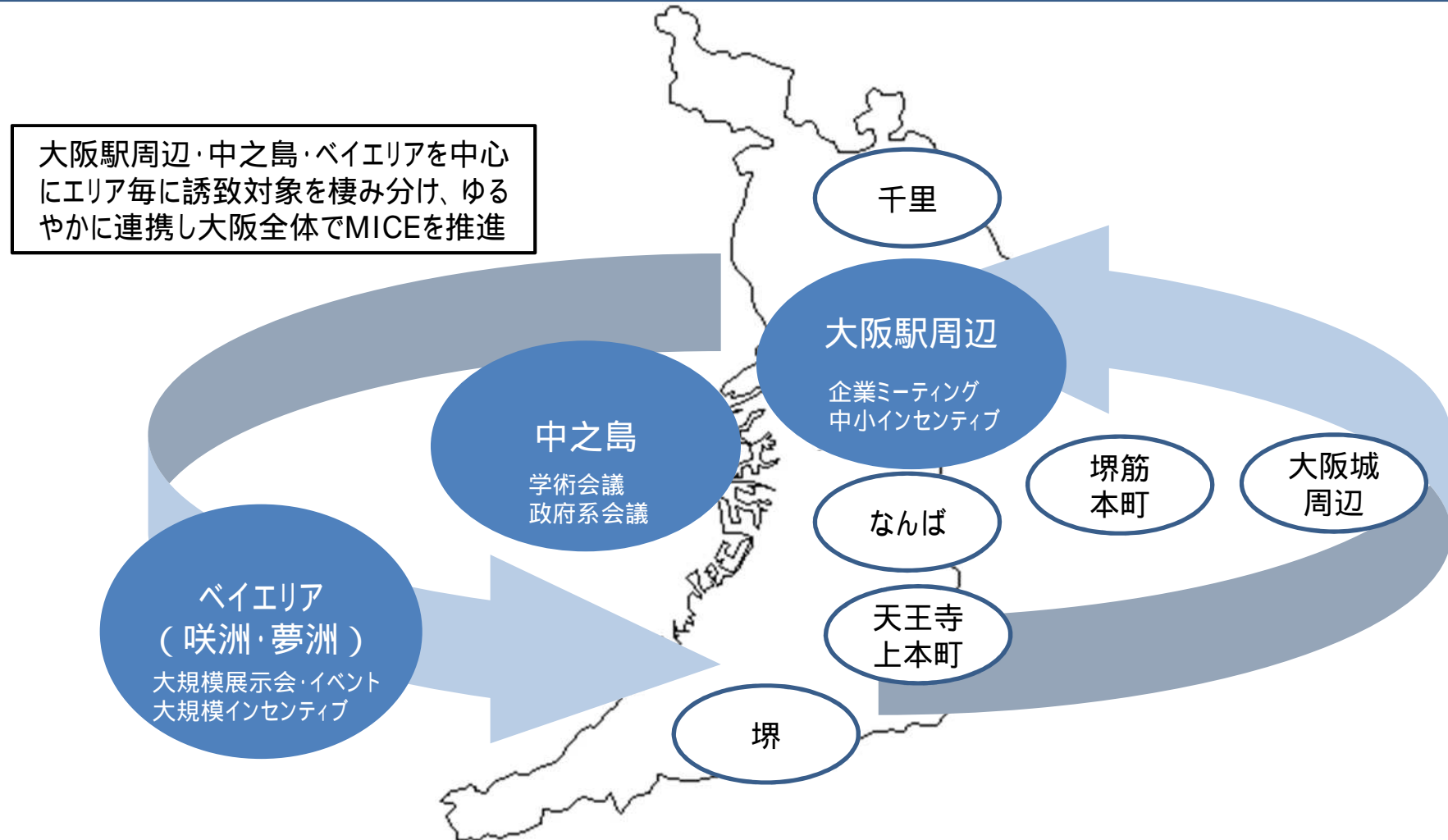
咲洲における主な展示施設

施設名	展示面積（㎡）
インテックス大阪	70,078
ATCホール	7,000

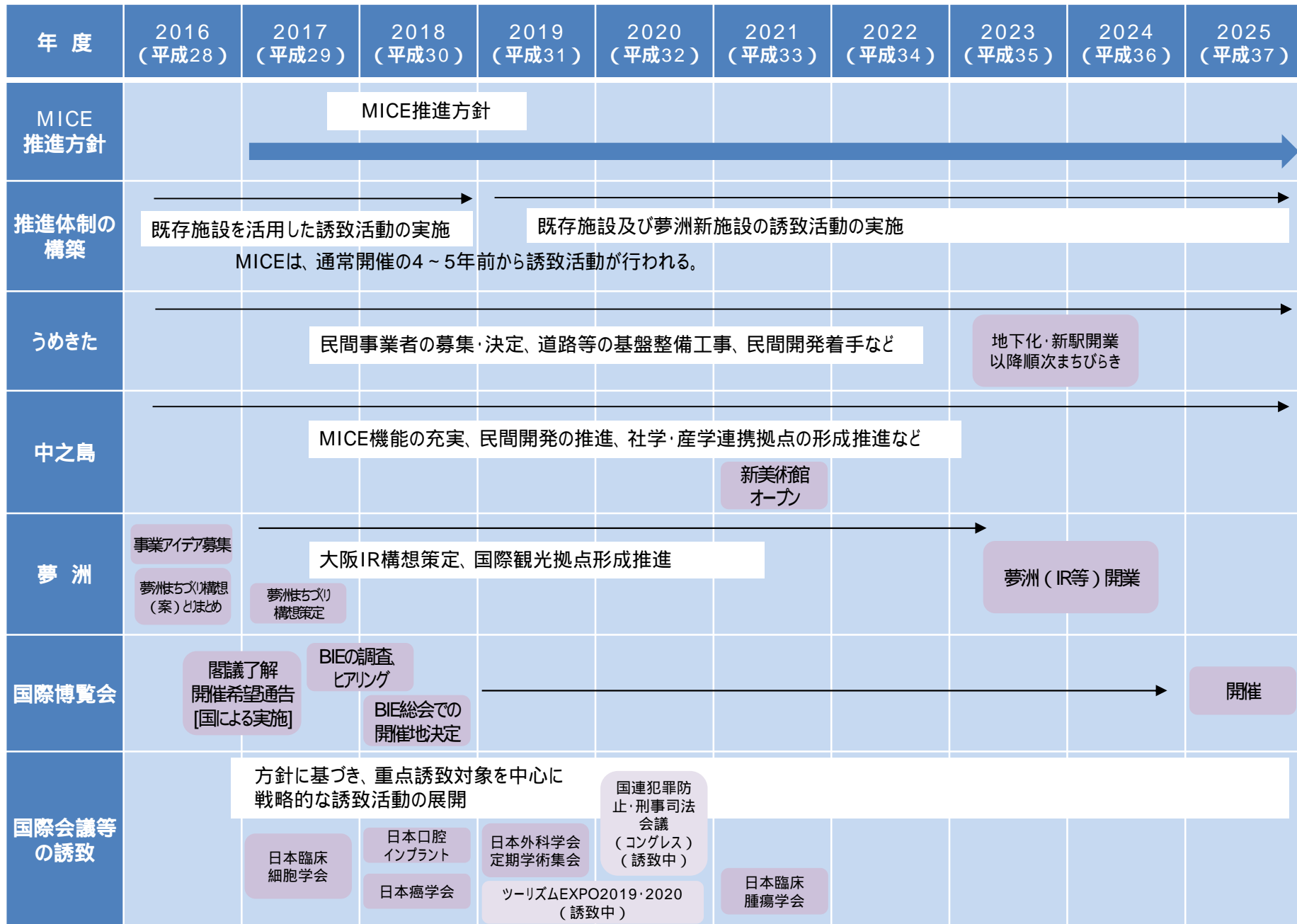
夢洲の国際観光拠点形成の検討の中で、改めてインテックス大阪の方向性についても検討

MICEクラスターの連携

- ・大阪観光局を中心に、大阪府域各所に立地するMICEクラスター毎に、緩やかに組織化。受け入れ可能な施設や地域の特性に合わせた誘致対象を検討し、MICEクラスター毎の棲み分けを図る。
- ・MICE誘致にあたって、各MICEクラスターが緩やかに連携を行う（情報共有・PR活動の実施等）。
- ・大阪全体で受け入れる必要があるMICEがあれば、各MICEクラスターが連携する。必要に応じて、大阪駅周辺（中小規模の企業会議、インセンティブツアー）、中之島（国際会議）、ベイエリア（咲洲・夢洲）（展示会、大規模インセンティブ、イベント）と連携する。



MICE関係想定スケジュール



大阪MICE推進委員会準備会

大阪府、大阪市、大阪商工会議所
公益社団法人関西経済連合会
一般社団法人関西経済同友会
公益財団法人大阪観光局（事務局）